

報道関係者の皆様

2025年8月吉日

豊州炭鉱災害65回忌実行委員会

67名の遺骨、今も地下に

福岡県・豊州炭鉱水没事故から65年—慰霊碑参拝へ

福岡県田川郡川崎町にあった旧豊州炭鉱では、1960年9月20日に中元寺川の水が坑内に流れ込み、作業員67名が犠牲となる大規模な災害が発生しました。あれから65年が経過しましたが、現在も遺骨は坑内に眠ったままであり、慰霊祭は2009年の50回忌を最後に、16年間実施されていません。

この状況に対し、東京都江戸川区在住のルポライター肥後義弘氏は、地元有志とともに「豊州炭鉱災害65回忌実行委員会」を結成し、今年9月15日に川崎町内にて慰霊碑参拝と講演会を開催します。

肥後氏は、20年以上にわたりこの災害について独自に調査を重ねており、週刊金曜日主催の「第24回ルポコンテスト」で入選した作品『沈黙の坑口』（原稿用紙約100枚）では、遺骨収容の必要性と災害の実像に迫っています。福岡県内における炭鉱災害事故の検証としては、全国的にも例が少ないものです。

また肥後氏は、これまで「豪雨による川底崩壊」が原因とされてきた通説に異論を唱え、構造的な安全管理の問題を指摘しています。類似事例として、山口県宇部市の長生炭鉱における海底遺骨収容調査が進展を見せている点にも触れ、早期の遺骨収容調査の必要性を呼びかけています。

今回の取り組みは、歴史的災害の再検証や遺族の願いを社会に問いかける試みでもあります。実行委員会では、報道関係者の皆様の取材協力を広く呼びかけています。

記

<9月15日慰霊祭&講演会スケジュール>

一部 慰霊碑で献花 13時～13時30分
川崎町三ヶ瀬で献花後、移動

二部 講演会 肥後義弘（ルポライター） 14時～16時
テーマ：「豊州炭鉱災害20年間の調査からわかった新事実」
会場：川崎町勤労青少年ホーム

田川郡川崎町大字田原 772番地の1

※参加をご希望の方には地図をお送りします。

豊州炭鉱災害65回忌 9月15日 13時～16時まで
67名の遺骨収容を行政に要請を

豊州炭鉱の水没事故
は、1960年9月20日、
中元寺川の水が坑内に
流れ込み、作業員67名
が犠牲となる大規模な
災害が発生しました。
現在も遺骨は坑内に
眠ったままであり、
慰霊祭は2009年の50
回忌を最後に、16年
間実施されていません。
この状況に対し、
東京都江戸川区在住の
ルポライター肥後義弘
氏は、地元有志ととも
に「豊州炭鉱災害65
回忌実行委員会」を結
成し、今年9月15日に
川崎町内にて慰霊碑参
拝と講演会を開催しま
す。

<9月15日慰霊祭参拝&講演会スケジュール>
一部 慰霊碑で献花 川崎町三ヶ瀬で献花後、移動 13時～13時30分
二部 講演会 肥後義弘（ルポライター） 14時～16時
テーマ：「豊州炭鉱災害20年間の調査からわかった新事実」
会場：川崎町勤労青少年ホーム（田川郡川崎町大字田原 772番地の1）
主催：豊州炭鉱災害65回忌実行委員会 事務局：肥後義弘
連絡先：(099-3249-9978) email: y.higo5249@gmail.com
田川事務局 久保ひろ美

豊州炭鉱災害65回忌実行委員会

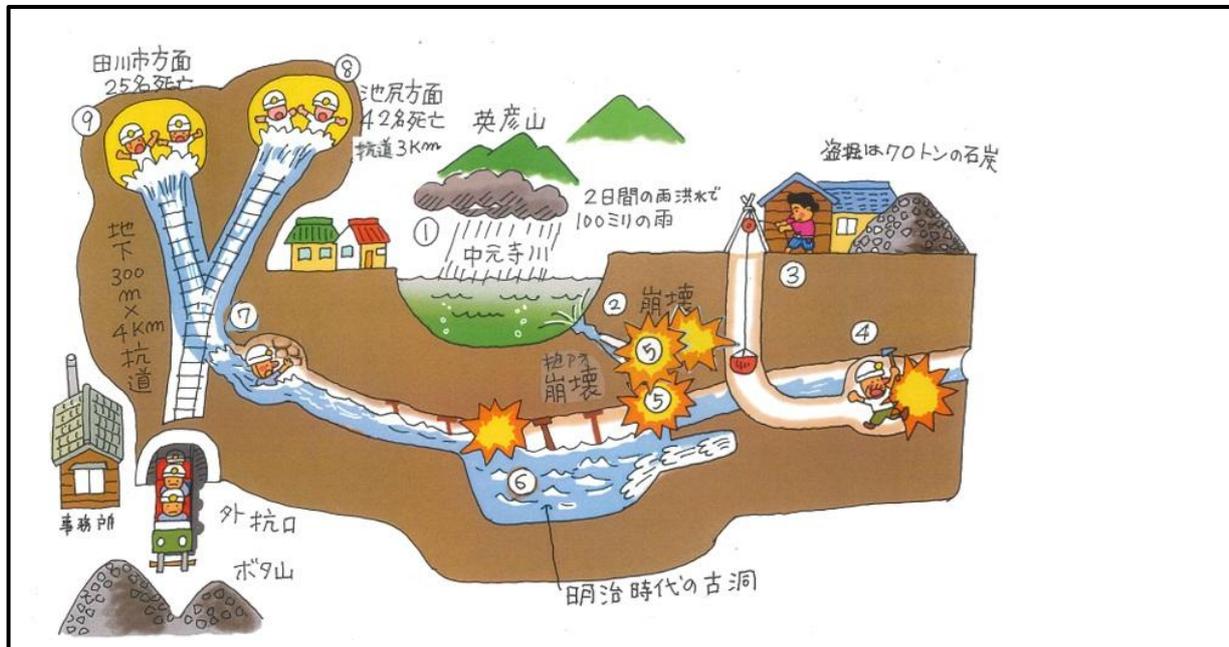
事務局：東京都江戸川区西葛西 8-2-2-408号（肥後義弘方）

TEL:03-5679-5269 FAX:03-5679-5203 携帯 090-3249-9978

田川事務局 田川郡川崎町池尻 久保ひろ美



週刊金曜日のルポコンテストで入選の作品(全文は週刊金曜日のHPに掲載)



福岡県・豊州炭鉱水没事故の様子

<肥後義弘 プロフィール>

1947年福岡県田川市生まれ。

九州国際大学法学部卒業後、西部読広、大和冷機工業(東証1部)などで、広告、広報部門の管理職を歴任。

その後(株)ピーアールセンターを設立し、代表取締役社長に就任。中堅・中小企業の広報支援に尽力。

1997年「週刊金曜日」主催の第1回ルポルタージュ大賞を受賞。

2021年 同誌主催の第24回ルポコンテストにて『沈黙の坑口』が入選。

日本ジャーナリスト会議会員として、社会的に埋もれた事実の掘り起こしに取り組む。

「豊州炭鉱災害の報を1960年9月20日に新聞で知って以来、長く心に残っていました。ルポを通じて構造的原因を問い直し、沈黙の底に埋もれていた事実にも光をあてることで、犠牲者の遺骨が一日も早くご家族のもとへ戻ることを願っています。」



肥後義弘